

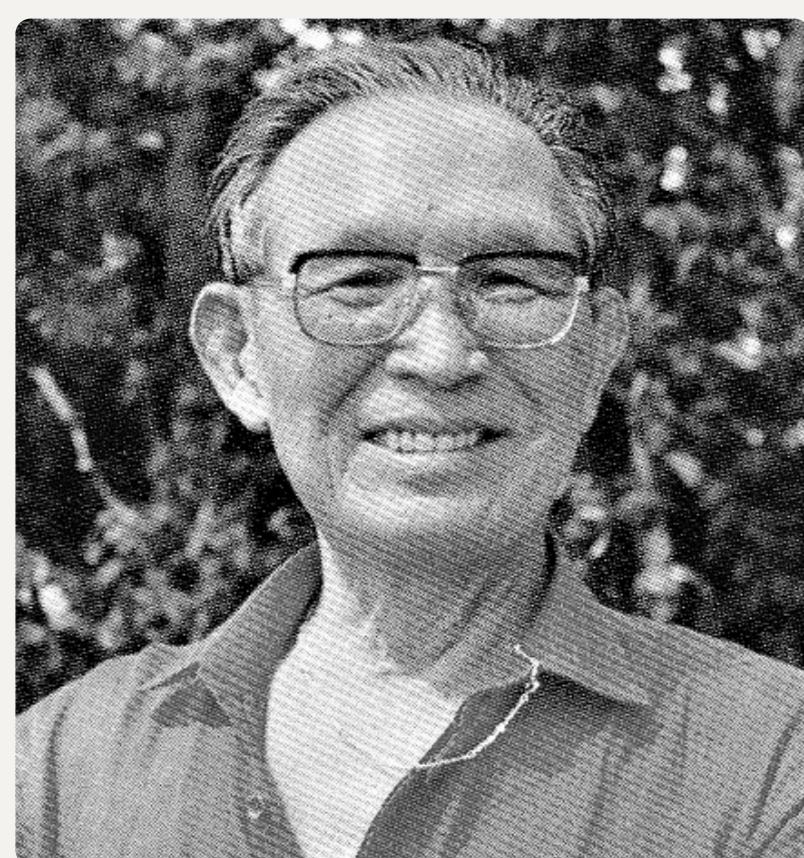
# 更生保護に尽力した偉人たち



渋沢 栄一  
しぶさわ えいいち  
1840～1931

渋沢栄一は「経営者は社会公共事業に貢献しなければならない」と、身寄りのない老人や子どもたち、帰る家を失った窮民たちを保護するため、養育院を運営した。これは病院、乳児院、孤児院、養老院などの機能を併せ持った施設である。

初代養老院院長として渋沢栄一は50年以上養老院に関与し、他の職を辞することはあっても、養育院の運営には最後まで関わりを捨てず、貢献している。



飛田 勝造  
ひだ かつぞう  
1904～1984

飛田勝造は前科者ゆえに仕事につけない人たち670人を引き連れて奥多摩の小河内ダム建設現場に入り、仕事を与えると同時に、同地に「精神修養導場」を創設。そこに彼らを参加させて、善い人格形成に努めた。また飛田は全国の日雇いなど下層労働者の生活改善と地位向上に尽力した。

飛田はその後、司法保護委員（現・保護司）に任命されている。



原 肇昭  
はら たねあき  
1853～1942

原胤昭は囚人の窮状をみて、監獄の改良や出獄者の保護が必要であると実感し、東京出獄人保護所を創立、1万3千人を超える出獄人を保護した。

また、日本で初めて本格的に児童虐待の問題に取り組み、「虐待を見聞きした人は是非知らせてほしい。手紙は受取人払い、住所氏名も書かなくていい、かわいそうな子どもを救ってやりましょう」と呼びかけた。



牧野 虎次  
まきの とらじ  
1871～1964

牧野虎次は社会事業の重要性を認識し、京都四条基督教会牧師として京都大二義塾（感化事業）、京都同友会（釈放者保護事業）を創立し、釈放者保護事業に尽力した。また、東京家庭学校（感化教育）校長を兼ね、60余年の永きに亘り社会事業に身を捧げた。なお彼は同志社大学長、同志社総長も歴任した教育者でもある。

鴉根救済所の「紀念碑」の最上段に牧野の名があるから、亀三郎とも面識があり、相当の支援もされたのだろう。